

報道関係各位

2015年7月7日

「エフェス」と「ディヤルバクル城壁とヘヴセルガーデンの文化的景観」が ユネスコ世界遺産リストに

ドイツのボンにおいて第39回世界遺産委員会が行われ、トルコからはエーゲ海地方の古代都市遺跡「エフェス」および世界で2番目に長い城壁を持つ「ディヤルバクル城壁とヘヴセルガーデンの文化的景観」がユネスコ世界遺産リストに登録されました。

既存の13の登録に加え、今回トルコの世界遺産は15を数えることとなりました。

エフェスは、紀元前7世紀頃から豊穡の女神アルテミスの神殿が建設され、ヘレニズム、ローマ期には港湾都市として繁栄した古代都市。世界三大図書館のひとつでもあるケルスス図書館、クレオパトラが歩いた伝説もあるマーブル通り、2世紀にローマ皇帝に捧げられたハドリアヌス神殿などが有名ですが、近郊の聖母マリアの終焉の地である聖母マリアの家やキリスト12使徒のひとりヨハネの墓所がある聖ヨハネ教会などもキリスト教徒の巡礼地にもなっています。

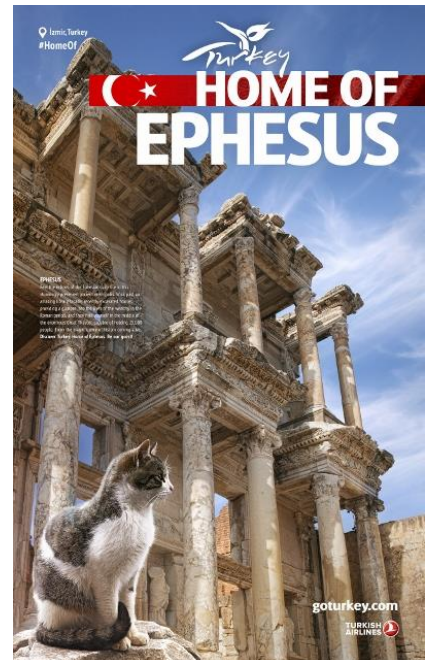
ディヤルバクルは、南東アナトリア地方に位置し、北メソポタミアにおけるチグリス・ユーフラテス河の狭間に広がる「肥沃の三角地帯」と言われる地域に立地しています。

キャラバンの道が通る神秘的の都市として、数々の文明社会の行政・文化・経済の中心地として認められています。

ディヤルバクルの城壁は、その古さと高さの観点からも世界トップクラスに入り、イチカレと呼ばれる内壁とドウシュカレと呼ばれる外壁の二つの部分から成り立っています。82個の塔が配置され、全長5.5km、城壁の高さは平均15m~20m、幅は3~5mとなっています。街を囲むドウシュカレ城壁は、349年にローマのコンスタンティヌス2世の治世下で修復強化されました。

ディヤルバクルの城壁は、各時代の文明の痕跡を残し、紀元前、ローマ文明、イスラム文明の特徴をも内包する装飾は、城壁に躍動感を与えています。また、ディヤルバクルは大型スイカの産地としても名高く、大型のものになると50kg前後にもなり、毎年9月にはスイカ祭りが開催されています。

トルコは歴史的にも文化的にも、豊かで独特の可能性を持っており、ユネスコの世界遺産暫定リストには、現在合計62の文化遺産が登録されています。なお、2016年に開催される第40回世界遺産委員会は、イスタンブールで開催予定になっています。



報道関係者の皆様からのお問合せ先

トルコ共和国大使館・文化広報参事官室広報代理店

株式会社フォーカス 担当：樺山

TEL: 03-3470-6380 / FAX: 03-3470-6037

Email: tokvo@tourismturkey.jp